



8 オプション










Express5800/ftサーバ用のオプションの紹介、および故障したデバイスの交換手順や注意事項について記載しています。










- ここで示すオプションの一部は、ユーザー個人でも取り付け/取り外しを行えますが、この場合の本装置、および部品の破損または運用した結果の影響についてはその責任を負いかねますのでご了承ください。本装置について詳しく、専門的な知識を持った保守サービス会社の保守員に取り付け/取り外しを行わせるようお勧めします。
- オプションおよびケーブルは弊社が指定する部品を使用してください。指定以外の部品を取り付けた結果起きた本装置の誤動作または故障・破損についての修理は有料となります。

安全上の注意

安全に正しくオプションの取り付け・取り外しをするために次の注意事項を必ず守ってください。

 警告	
       	<p>本装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。 人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、1-9ページ以降 の説明をご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none">● 自分で分解・修理・改造はしない● CD-ROMドライブの内部をのぞかない● リチウム電池を取り外さない● プラグを差し込んだまま取り扱わない

 注意	
     	<p>本装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。 火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、 1-9ページ以降の説明をご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none">● 一人で搬送・設置をしない● カバーを外したまま取り付けない● 中途半端に取り付けない● 指を挟まない● 高温注意

静電気対策について

Express5800/ftサーバ内部の部品は静電気に弱い電子部品で構成されています。取り付け・取り外しの際は静電気による装置の故障に十分注意してください。

- **リストストラップ(アームバンドや静電気防止手袋など)の着用**

リスト接地ストラップを手首に巻き付けてください。手に入らない場合は部品を触る前に筐体の塗装されていない金属表面に触れて身体に蓄積された静電気を放電します。また、作業中は定期的に金属表面に触れて静電気を放電するようにしてください。

- **作業場所の確認**

- ー 静電気防止処理が施された床、またはコンクリートの上で作業を行います。
- ー カーペットなど静電気の発生しやすい場所で作業を行う場合は、静電気防止処理を行った上で作業を行ってください。

- **作業台の使用**

静電気防止マットの上に本装置を置き、その上で作業を行ってください。

- **着衣**

- ー ウールや化学繊維でできた服を身につけて作業を行わないでください。
- ー 静電気防止靴を履いて作業を行ってください。
- ー 取り付け前に貴金属(指輪や腕輪、時計など)を外してください。

- **部品の取り扱い**

- ー 取り付ける部品は本装置に組み込むまで静電気防止用の袋に入れておいてください。
- ー 各部品の縁の部分を持ち、端子や実装部品に触れないでください。
- ー 部品を保管・運搬する場合は、静電気防止用の袋などに入れてください。

装置を増設する前の確認作業

Express5800/ftサーバに装置を増設する場合、装置によっては動作中のft制御ソフトウェアのバージョンを限定するものがあります。そこで、増設対象の装置がft制御ソフトウェアのバージョンの確認を必要とする場合、装置の増設前に以下の手順を実施してください。

1. 増設対象の装置に添付されている説明書、もしくは、PP・サポートサービスのWebページ(PP・サポートサービスをご購入のお客様のみご利用になれます)から必要なft制御ソフトウェアのバージョンを確認する。
2. 動作中のシステムのft制御ソフトウェアのバージョンを確認する。
3. 装置を使用することが可能なバージョンであることが確認できた後、装置の増設を行う。

なお、動作中のシステムのft制御ソフトウェアのバージョンを確認する方法については、別冊のユーザズガイド(セットアップ編)の「ft制御ソフトウェアのバージョン確認方法」を参照してください。

増設・交換の基本

増設や交換をするときは、Express5800/ftサーバとしての機能を十分に発揮するために次の点について注意してください。

- Express5800/ftサーバでは、連続運転をしている間にデバイスの交換をします。感電やショートによる部品の破損には十分注意してください。
- 連続運転をしている間は、オプションの取り付け・取り外しができません。Windows Server 2003から正しくシャットダウン処理をした後、本装置の電源をOFFにして、接続しているすべての電源コードおよびインターフェースケーブルを取り外してから始めてください。
- Express5800/ftサーバの連続運転中にCPUモジュールおよびPCIモジュールを取り外す場合は、ESMPRO/ServerAgentの「ftサーバユーティリティ」またはネットワーク上の管理PCから「ESMPRO/ServerManager」を使用して取り外すモジュールを停止（オフライン）してから取り外してください。取り付け後は、取り外しと同様にftサーバユーティリティまたはESMPRO/ServerManagerから取り付けたモジュールを起動（オンライン）してください。



Express5800/ftサーバの初期設定では、モジュールを取り付けたときに自動的に起動するよう設定されています。設定はftサーバユーティリティまたはESMPRO/ServerManagerから変更することができます。詳しくは5章を参照してください。

- 必ず両方のグループのハードウェア構成を同じにしてください。
- デバイスを取り付けるスロットやソケットは、もう一方のグループと同じにしてください。
- 規格や性能、機能の異なるデバイスを取り付けないでください。
- CPUモジュールやPCIモジュールの固定ネジを外す前にftサーバユーティリティまたはESMPRO/ServerManagerから取り外すモジュールをオフラインにしてください。
- テープ装置などの外部SCSI機器を本装置内蔵のSCSIコネクタへ接続する場合は、本装置の電源をOFFにしてから接続してください。。

オプション一覧

Express5800/ftサーバ用として用意されているオプションの一覧を以下に示します。

ここに記載されていないものは、保守用交換部品またはお客様のご要望によってサポートされる部品です。詳しくは、お買い求めの販売店または弊社営業担当、保守サービス会社にお問い合わせください。

また、オプションにはお客様自身で取り扱いのできる「CRU(カスタマ・リプレーサブル・ユニット)」とフィールドエンジニアのみが取り扱うことのできる「FRU(フィールド・リプレーサブル・ユニット)」があります。下記にあるオプションでFRUに該当するオプションは、お買い求めの販売店または保守サービス会社に取り付け・取り外しを依頼してください。



二重化システムを構築するためには必ず2台1組で増設してください。また、各モジュール内に搭載する部品については、モジュール内の同じスロット(ソケット)に同一の部品を取り付けなければなりません。

品名	取扱区分		増設品/ 交換品	備考
	CRU	FRU		
PCIモジュール	×	○	交換品	Express5800/ftサーバに2台搭載済みの部品です。
ハードディスクドライブ	○	×	増設品/ 交換品	PCIモジュール1台あたりに3台搭載することができます。標準で1台搭載しています。ハードディスクドライブの取り扱いについては、8-7ページを参照してください。
PCIボード	×	○	増設品/ 交換品	PCIモジュール1台あたりに3枚搭載することができます。標準で搭載されているSMMボードもFRU品です。搭載したPCIボードのセットアップについては、8-16ページを参照してください。
CPUモジュール	×	○	交換品	Express5800/ftサーバに2台搭載済みの部品です。
DIMM (メモリ)	×	○	増設品/ 交換品	CPUモジュール1台あたりに12枚 (12GB) 搭載することができます。標準で512MBのDIMMを4枚搭載しています。搭載単位は4枚1組です。
プロセッサ (CPU)	×	○	増設品/ 交換品	CPUモジュール1台あたりに4個搭載することができます。標準で2個搭載しています。
拡張PCIモジュール	×	○	交換品	Express5800/ftサーバに2台搭載済みの部品です。
PCIボード	×	○	増設品/ 交換品	拡張PCIモジュール1台あたりに3枚搭載することができます。搭載したPCIボードのセットアップについては、8-16ページを参照してください。

3.5インチハードディスクドライブについて

Express5800/ftサーバの前面にある3.5インチハードディスクドライブベイには、SCA2インタフェースを持つハードディスクドライブを取り付けるスロットを6つ用意しています。



- ハードディスクドライブの取り付け/取り外し/交換はお客様自身でも行えますが、ご不明な点がある場合は無理な操作をせずに専門的な知識を持った保守サービス会社の保守員に行わせるようお勧めします。
- 弊社で指定していないハードディスクドライブを使用しないでください。サードパーティのハードディスクドライブなどを取り付けると、ハードディスクドライブだけでなく本装置が故障するおそれがあります。ハードディスクドライブは、同じモデルを2台1組でお買い求めください。本装置に最適なハードディスクドライブについては、お買い求めの販売店にお問い合わせください。
- OSが起動するハードディスクドライブは、Primary PCIモジュール(POWERスイッチのLEDが点灯している方)に搭載されているスロット1からです。
- PCIモジュールが片系(非二重化)の状態、OSのシャットダウンした時、ハードディスクドライブのミラーリングが外れている場合があります。この後OSを起動する時、オフラインであったPCIモジュール側のハードディスクドライブは、ミラーリングが外れた状態である可能性がある為、OS起動に失敗します(7章の「トラブルシューティング」参照)。OSシャットダウン時オンラインだったPCIモジュールに搭載されているハードディスクドライブから起動してください。
- ハードディスクドライブ用SCSIコントローラのコントローラエラーについて

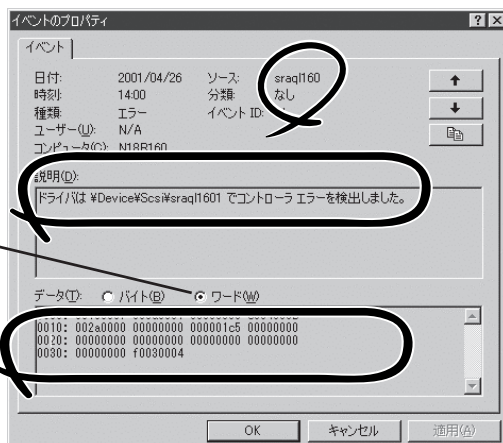
システムのイベントログにソースがsraq1160のSCSIコントローラエラーが記録される場合があります。これはハードディスクドライブの処理がOSの要求に間に合わない場合に発生するもので、リトライ機能により正常に処理が継続されます。動作には何ら影響がありませんので、以下のとおり「詳細データ」を確認して、データが「f0030004」または「f0030015」であれば、そのログは無視してください。ただし、上記の詳細データが「f0030004」または「f0030015」であるSCSIコントローラエラーが何度も記録されるようであれば、ハードディスクドライブの故障が考えられますので、保守サービス会社にご連絡ください(目安としては1週間に10回以上)。

ソース: sraq1160

説明(D):

ドライバは¥Device¥Scsi¥sraq1160xでコントローラエラーを検出しました(xには、1、2などの数字が入ります)。

上記イベントのプロパティの詳細データをワード表示した場合、「0034:」からの値が「f0030004」または「f0030015」であれば問題はありませ

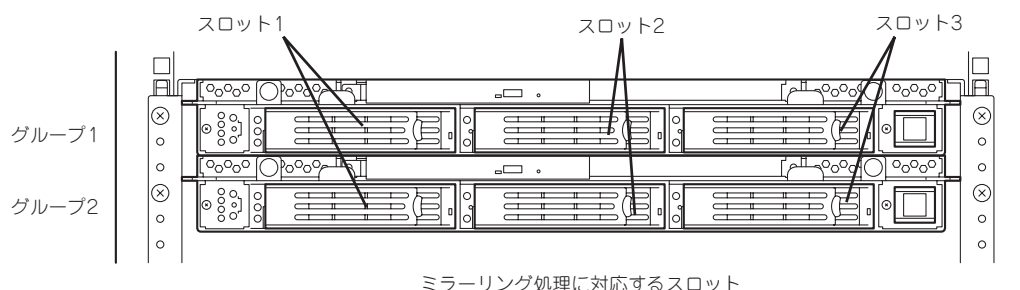


- POWERスイッチのLEDが点灯しているほうが プライマリPCIモジュールです。
- 電源コードを接続する順番でプライマリPCIモジュールが決まります。先に接続した方がプライマリPCIモジュールとなります。

PCIモジュールにある3.5インチハードディスクドライブベイの3つのスロットには約25.4mm(1インチ)厚のハードディスクドライブを取り付けることができます。

3.5インチハードディスクドライブベイにはスロット番号が記載されたラベルが貼られています。

各グループの同じスロット番号でミラーリングされています。次に、グループ単位とミラーの対象となるスロットを示します。



ハードディスクドライブベイの空きスロットにはダミートレーが入っています。ダミートレーは装置内部の冷却効果を高めるためのものです。ハードディスクドライブを搭載していないスロットにはダミートレーを取り付けてください。

ハードディスクドライブトレイのハンドル部にハードディスクドライブを実装したスロット番号に対応した「IDラベル」を貼り付けてください。



「IDラベル」は数回、貼り付け直すことができますので、大切に保管しておいてください。

取り付け

次に示す手順でハードディスクドライブを取り付けます。その他のスロットへの取り付けも同様の手順で行えます。



重要

- 作業を始める前に必ず「静電気対策について」(8-3ページ)、および「増設・交換の基本」(8-5ページ)の説明を読んでください。
- ディスク二重化を構成する2台を実装してから、Windows Server 2003を起動してください。必ず、ディスク二重化の設定を行ってください。

1. Windows Server 2003からシャットダウン処理をする。

2. 電源コードを本装置から外す。

3. フロントベゼルを取り外す。

4. ハードディスクドライブを取り付けるスロットを確認する。

ハードディスクドライブは各グループ内で空いているスロットのうち、左のスロットから順に取り付けます。

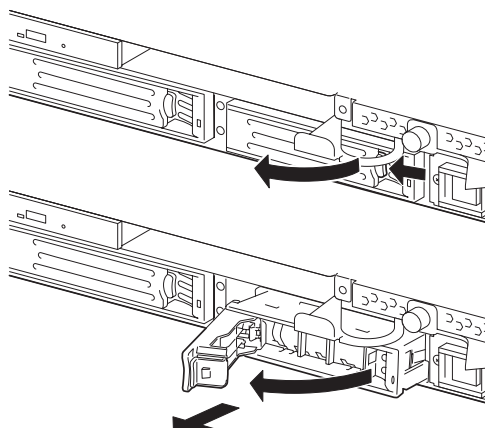
5. ダミートレーのレバーを押してロックを解除し、ハンドルを倒し手前に引き出してダミートレーを取り外す。

ダミートレーはスロット1を除くスロットに入っています。

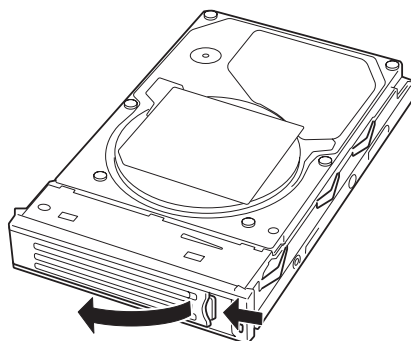


重要

ダミートレーは大切に保管しておいてください。



6. ハードディスクドライブのロックを解除する。

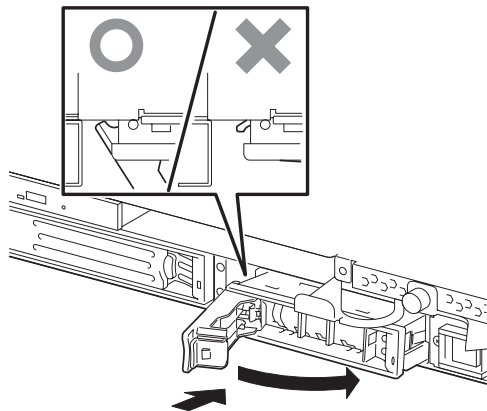


7. 増設するハードディスクドライブ(トレード付き)のハンドルをしっかりと持ってスロットへ挿入する。



チェック

- ハンドルのフックがフレームに当たるまで押し込んでください。
- レバーの向きを確認してください。また、レバーは解除した状態のまま挿入してください。



8. ハンドルをゆっくりと閉じる。
「カチッ」と音がしてロックされます。



重要

ハンドルとトレードに指を挟まないように注意してください。



チェック

押し込むときにハンドルのフックがフレームに引っかかっていることを確認してください。

9. 電源コードを接続する。
10. POWERスイッチを押して、電源をONにする。
11. フロントベゼルを取り付ける。
Windows Server 2003が起動してしばらくすると、ハードウェアの検出のウィザードが表示されます。
12. 検索方法として「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」を選択し、[次へ]をクリックする。
13. 表示される一覧でモデルが「Stratus Dual initiated disk Device」と表示されていることを確認し、そのまま完了と表示されるまで[次へ]をクリックする。
14. 別冊のユーザズガイド(セットアップ編)の「ディスクの二重化を設定する」を参照して、ディスク二重化の設定する。

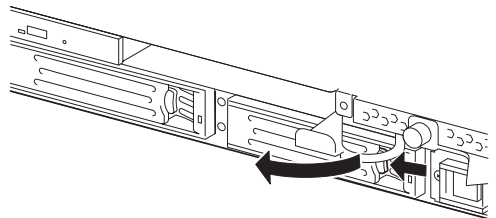
取り外し

次の手順でハードディスクドライブを取り外します。

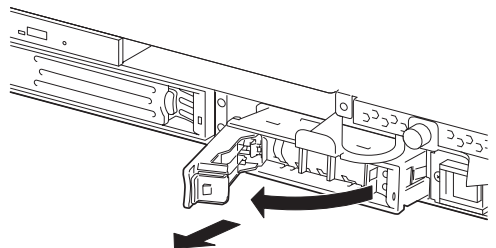


- 作業を始める前に必ず「静電気対策について」(8-3ページ)、および「増設・交換の基本」(8-5ページ)の説明を読んでください。
- ハードディスクドライブランプが緑色に点滅(ハードディスクドライブが読み込み/書き込みを実行)しているときには、ハードディスクドライブを絶対に取り外さないでください。

1. Windows Server 2003からシャットダウン処理をする。
自動的に本体の電源はOFFになります。
2. 電源コードを本装置から外す。
3. フロントベゼルを取り外す。
4. ハードディスクドライブのレバーを押してロックを解除し、ハンドルを倒す。



5. ハンドルとハードディスクドライブをしっかりと持って手前に引き出す。
6. 「取り付け」を参照して、ダミートレーを取り外したスロットへ取り付ける。
装置内部のデバイスの冷却効果を高めるためにダミートレーを取り付けてください。



交 換

ハードディスクドライブの故障による交換は次の手順で行います。ハードディスクドライブの交換は装置の電源がONの状態で行います。



作業を始める前に必ず「静電気対策について」(8-3ページ)および「増設・交換の基本」(8-5ページ)の説明を読んでください。連続運転中に交換作業ができます。

交換手順

1. 故障したハードディスクドライブを特定する。

ハードディスクドライブが故障した場合、ハードディスクドライブのハンドル部分にあるDISKランプ(□)は故障している側が緑色に点灯し、ミラーの対象になっているもう一方のハードディスクドライブ(正常)のDISKランプ(□)はアンバー色に点灯します。



チェック

ハードディスクドライブに故障がある場合に、DISKランプの点灯状態が上記のようにならない場合があります。故障したハードディスクドライブの特定には、3-26ページの「故障ディスクの特定方法」を参照してください。

2. 「取り外し」を参照して、故障したハードディスクドライブを取り外す。

Windows Server 2003をシャットダウンする必要はありません。

3. 「取り付け」を参照して、新しいハードディスクドライブを取り付ける。



チェック

- 交換するハードディスクドライブは、ミラーリングの対象となるハードディスクドライブと同じ仕様のものを使ってください。
- 交換するハードディスクドライブは署名されていないものを利用してください。署名されているハードディスクドライブを利用する場合には、ハードディスクドライブの初期化後に3章の「ディスクの操作」を参照して冗長構成を復旧する必要があります。ハードディスクドライブの初期化は別冊のユーザーズガイド(セットアップ編)の「ハードディスクドライブの初期化手順」を参照してください。

4. 冗長構成の復旧を行う。

3章の「ディスクの操作」を参照して、冗長構成を復旧させてください。

プロセッサ(CPU)について

プロセッサ(CPU)は、Express5800/ftサーバに取り付けられるCPUモジュール上のCPUソケットに取り付けます。

CPUモジュール上にはCPUを取り付けるソケットが4個あり、標準で2個搭載されています。



CPUモジュールおよびプロセッサ(CPU)の取り付け／取り外し／交換は、専門的な知識を持った保守サービス会社の保守員が行ってください。ユーザー個人が行い本体装置及び部品の破損または運用した結果の影響についてはその責任を負いかねますのでご了承ください。

DIMMについて

DIMM (Dual Inline Memory Module) は、Express5800/ftサーバに取り付けられているCPUモジュール上のDIMMソケットに取り付けます。

CPUモジュール上にはDIMMを取り付けるソケットが12個あり、標準で512MBのDIMMが4枚、DIMMバンク0に搭載されています (標準で取り付けられているDIMMも交換することができます)。



重要

- CPUモジュールおよびDIMMの取り付け／取り外し／交換は、専門的な知識を持った保守サービス会社の保守員が行ってください。ユーザー個人が行い本装置及び部品の破損または運用した結果の影響についてはその責任を負いかねますのでご了承ください。
- 搭載メモリが4GBを超える場合(または「システムのプロパティ」-「全般」タブ、および「タスクマネージャ」-「パフォーマンス」タブの物理メモリに表示されるメモリサイズが搭載メモリより小さい場合)には、BOOT.INIファイルに/PAEスイッチを指定してください。Windowsシステムから搭載メモリ全体を利用するためには、/PAEスイッチを指定する必要があります。/PAEスイッチを指定しなかった場合、Windowsシステムは搭載メモリの一部のみを利用します。

指定方法の詳細については、マイクロソフト サポート技術情報を確認してください。BOOT.INIファイルは以下の手順で表示します。

1. マイコンピュータを右クリックして「プロパティ」を選択し、「システムのプロパティ」を表示する。
2. 「システムのプロパティ」-「詳細設定」タブの「起動と回復」の「設定」ボタンを押下する。
3. 表示された画面の「起動システム」の「編集」ボタンを押下する。

BOOT.INIが以下のような場合の修正例を示します。

(修正前)

```
[boot loader]
timeout=30
default=multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)¥WINNT
[operating systems]
multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)¥WINNT="Windows Server 2003,
Enterprise" /fastdetect
```

(修正後)

```
[boot loader]
timeout=30
default=multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)¥WINNT
[operating systems]
multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)¥WINNT="Windows Server 2003,
Enterprise" /fastdetect /PAE
```



メモ

メモリは最大12GB (1GB×12枚)まで増設できます。

PCIボードについて

PCIモジュールおよび拡張PCIモジュールには、PCIボードを3枚搭載することができますが、上部2台のPCIモジュールのPCIスロット1にはSMMボードが標準で実装されています。



PCIモジュールおよび拡張PCIモジュール、PCIボードの取り付け／取り外し／交換／セットアップは、専門的な知識を持った保守サービス会社の保守員が行ってください。ユーザー個人が行い本装置及び部品の破損または運用した結果の影響についてはその責任を負いかねますのでご了承ください。

オプションPCIボードのセットアップについて



- オプションPCIボードのセットアップは専門的な知識を持った保守サービス会社の保守員に行わせるようお勧めします。
- オプションデバイスのフォールトトレラント機能を有効にするときは、グループ1とグループ2の同スロットに同じPCIボードを搭載する必要があります。
- PCIモジュールのスロット1にはSMMボードを標準で装備しています。取り外したり、他のボードに取り替えたりすることはできません。
- オプションPCIボードによっては、BIOSの設定を変更する必要があります。BIOSの設定を変更する場合は、BIOSセットアップユーティリティを起動して、「Stratus」-「Monitoring Configuration」の「Boot Monitoring Time-out Period」の設定を変更してください。詳しくは4-13ページを参照してください。
- オプションPCIボード接続時の注意点

拡張PCIモジュールのPCIバスは、最大66MHzで動作しますが、33MHzで動作するオプションPCIボードを拡張PCIモジュールに実装した場合、拡張PCIモジュールに実装されているオプションPCIボードはすべて33MHzで動作します。

拡張PCIモジュールのPCIバスを66MHzで動作させたい場合、拡張PCIモジュールには66MHzで動作するオプションPCIボードのみ実装してください。また、同時に33MHzで動作するオプションPCIボードを接続したいとき、33MHzで動作するオプションPCIボードはPCIモジュールに実装してください。

オプションPCIボードの動作周波数

— N8803-031 (Fiber Channelコントローラ)	66MHz
— N8804-001P1 (100BASE-TX接続ボードセット)	33MHz
— N8104-84 (1000BASE-SX接続ボード)	66MHz
— N8104-103 (1000BASE-T接続ボード)	66MHz
— N8890-005 (Disk増設ユニット)添付のコントローラボード	33MHz

N8804-001P1 100BASE-TX接続ボード



本体ボードを使用する場合、接続するLANケーブルのコネクタは、IEC-8877規格に準拠しているRJ-45コネクタを使用してください。標準品以外を使用すると、コネクタが抜けにくくなる場合があります。

● 取り付けスロット一覧

型 名	製品名	PCIモジュール PCIスロット						拡張PCIモジュール PCIスロット						備 考
		グループ1			グループ2			グループ1			グループ2			
		#1	#2	#3	#1	#2	#3	#1	#2	#3	#1	#2	#3	
N8804-001P1	100BASE-TX接続ボード	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	

○ 搭載可能 — 搭載不可



N8804-001P1、N8104-84、N8104-103と本装置内蔵のLANコントローラ（100BASE-TX、1000BASE-SX）を合わせて、装置全体で搭載可能な組数は最大6組までです。

● ドライバインストール手順

Express5800/ftサーバでは、N8804-001P1を2枚または4枚1組で二重化構成にして使用します。

以下の手順でドライバをインストールしてから二重化構成のセットアップをしてください。



この手順を実行するには、管理者またはAdministratorsグループのメンバとしてログインしなければなりません。

OSのインストール終了後、次の手順に従ってドライバをインストールし、二重化の設定をします。

1. PCIモジュールまたは拡張PCIモジュールそれぞれの同スロットにN8804-001P1を取り付けて、Windows Server 2003を起動する。

起動後、[新しいハードウェアが見つかりました]ウインドウが表示され、ドライバは、自動でインストールされます。



[デジタル署名が見つかりませんでした]ダイアログボックスが表示されることがあります。表示された場合は[はい]をクリックしてください。

2. LANの二重化を構築する。

別冊のユーザズガイド(セットアップ編)の「LANの二重化を設定する」を参照してください。

重要

- 「LANの二重化設定」の手順3において[Fault Tolerance]だけでなく[Load Balancing]の設定を行うこともできます。その場合は[Team #1:Adaptive Load Balancing Mode]が追加されます。
- 「LANの二重化設定」の手順4、手順5において NetWork Component Treeの表示は[Stratus emb-82559 10/100 Enet Adpter]を[Stratus AA-U51500 10/100 Enet Adapter]に読み替えて選択してください。
- 「LANの二重化設定」の手順5において4枚1組で二重化を構築する場合も同じようにアダプタを追加してください。

以上で完了です。

N8803-031 Fibre Channelコントローラ

● 取り付けスロット一覧

型 名	製品名	PCIモジュール PCIスロット						拡張PCIモジュール PCIスロット						備 考	
		グループ1			グループ2			グループ1			グループ2				
		#1	#2	#3	#1	#2	#3	#1	#2	#3	#1	#2	#3		
N8803-031	Fibre Channelコントローラ	－	○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	PCIモジュール/ 拡張PCIモジュール にN8803-031を1枚 搭載可能

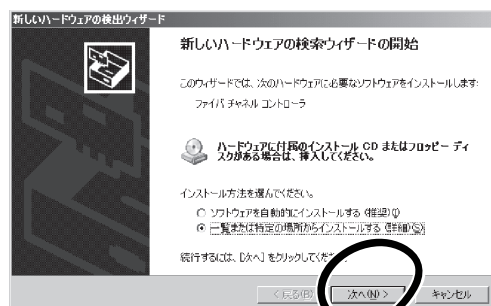
○ 搭載可能 — 搭載不可

● ドライバインストール手順

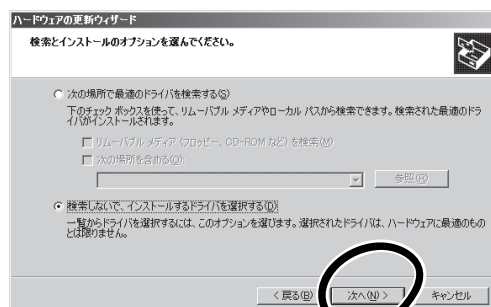
1. N8803-031 Fibre Channelコントローラを実装後、システムを起動する。

新しいハードウェアの検出ウィザードが起動します。

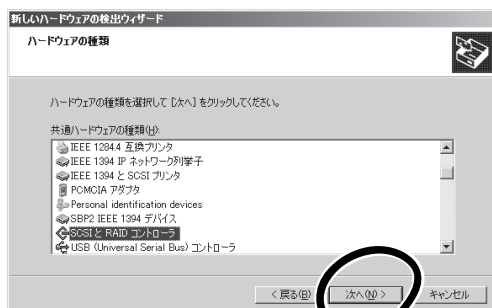
2. [一覧または特定の場所からインストールする]を選択し、[次へ]をクリックする。



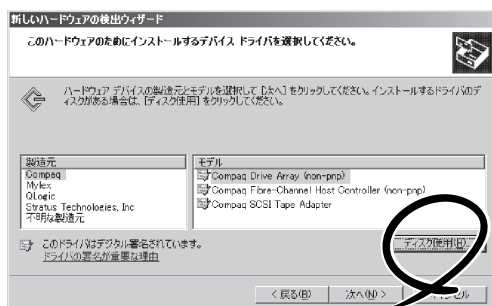
3. [検索しないで、インストールするドライバを選択する]を選択し、[次へ]をクリックする。



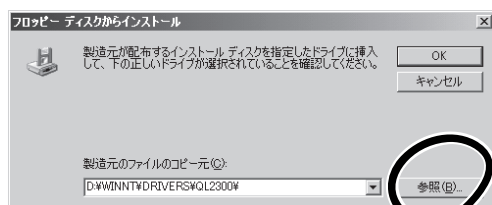
4. [SCSIとRAIDコントローラ]を選択し、
[次へ]をクリックする。



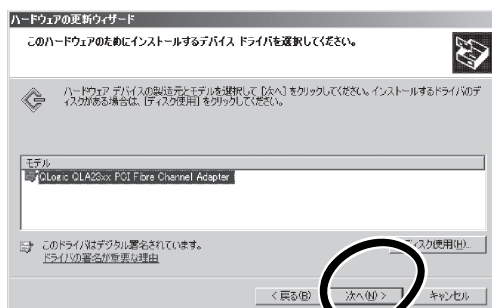
5. モデル一覧に表示されているドライバは
選択せずに、[ディスク使用]をクリック
する。



6. C D - R O M ドライブに
「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセッ
トして[参照]をクリックし、製造元の
ファイルのコピー元に、CD-ROMドライ
ブ：¥WINNT¥DRIVERS¥QL2300フォル
ダを指定して[OK]をクリックする。

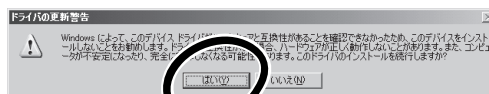


7. モデル欄に表示される[Qlogic QLA23xx
PCI Fibre Channel Adapter]を選択し、
[次へ]をクリックする。

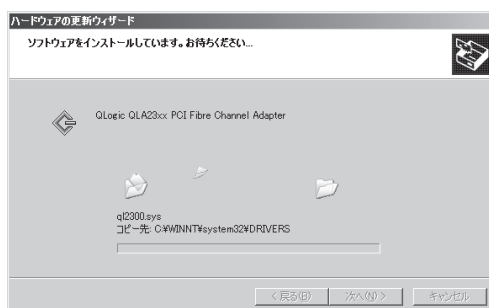


8. ドライバの更新警告が表示されますが、
[はい]をクリックして続行する。

ドライバがインストールされます。

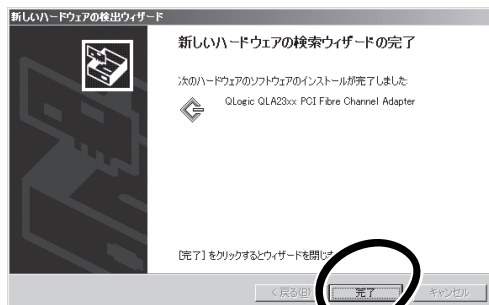


インストールの途中、10～20秒間マウスカーソルが動かなくなりますが、そのままお待ちください。

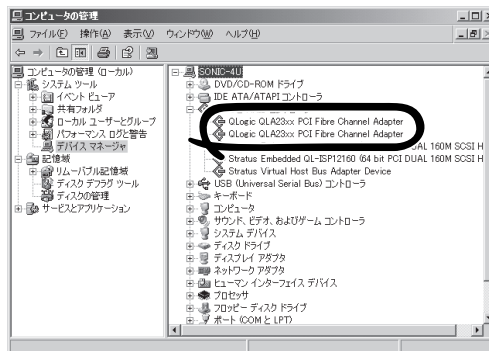


9. [完了]をクリックする。

Fibre Channelコントローラの実装枚数分ウィザードが起動されますので、1～9までの手順を繰り返します。



10. [スタート]-[プログラム]-[管理ツール]-[コンピュータの管理]-[デバイスマネージャ]を起動し、[SCSIとRAIDコントローラ]の下に、[Qlogic QLA23xx PCI Fibre Channel Adapter]がFibre Channelコントローラの実装枚数分表示されていることを確認する。



- N8803-031を使用するためには、StoragePathSaviorが必要です。
- N8803-031は、OSのインストールが終了した後に実装してください。
また、N8803-031は2枚1組で使用します。各PCIモジュールの同じスロット位置にそれぞれ1枚ずつ実装してください。

● ステータスの確認について

Fibre Channelコントローラのステータスは、PCIボードステータスを参照するのではなく、StoragePathSaviorを使って確認してください。

N8104-84 1000BASE-SX接続ボード



重要

この製品に関しては、以下の点にご注意願います。

- 接続するLANケーブルのコネクタは、IEC-8877規格に準拠しているRJ-45コネクタを使用してください。標準品以外を使用すると、コネクタが抜けにくくなる場合があります。
- 各接続先の使用用途が異なり、同タイミングでのアクセスが発生しない環境下での増設をお願いします(システムライン用、保守用、監視用など)。
- アクセスが集中した場合、装置処理能力および伝送速度が若干劣化するおそれがあります。

● 取り付けスロット一覧

型 名	製品名	PCIモジュール PCIスロット						拡張PCIモジュール PCIスロット						備 考
		グループ1			グループ2			グループ1			グループ2			
		#1	#2	#3	#1	#2	#3	#1	#2	#3	#1	#2	#3	
N8104-84	1000BASE-SX接続ボード*	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	各PCIモジュールに1枚だけ実装可能 各拡張PCIモジュールに2枚搭載可能

○ 搭載可能 — 搭載不可



重要

N8804-001P1、N8104-84、N8104-103と本装置内蔵のLANコントローラ(100BASE-TX、1000BASE-SX)を合わせて、装置全体で搭載可能な組数は最大6組までです。

● ドライバインストール手順

Express5800/ftサーバでは、N8104-84を2枚1組で二重化構成にして使用します。

以下の手順でドライバをインストールしてから二重化構成のセットアップをしてください。



重要

[ドライバのインストールを行う場合、ボード添付のフロッピーディスクを使用しないでください。正しく動作しなくなります(PROSet IIが起動しなくなります)。



ヒント

この手順を実行するには、管理者またはAdministratorsグループのメンバとしてログインしなければなりません。

OSのインストール終了後、次の手順に従ってドライバをインストールし、二重化の設定をします。

1. PCIモジュールまたは拡張PCIモジュールそれぞれの同スロットにN8104-84を取り付けて、Windows Server 2003を起動する。

起動後、[新しいハードウェアが見つかりました]ウィンドウが表示され、ドライバは、自動的にインストールされます。

重要

[デジタル署名が見つかりませんでした]ダイアログボックスが表示された場合は、[はい]をクリックしてください。

2. LANの二重化を構築する。

別冊のユーザズガイド(セットアップ編)の「LANの二重化を設定する」を参照してください。

重要

「LANの二重化設定」の手順3において[Fault Tolerance]だけでなく[Load Balancing]の設定を行うこともできます。その場合は[Team #1:Adaptive Load Balancing Mode]が追加されます。

また、「LANの二重化設定」の手順4、手順5において NetWork Component Treeの表示は[Stratus emb-82559 10/100 Enet Adapter]を[Stratus AA-U57000 Fiber Gigabit Adapter]に読み替えて選択してください。

以上で完了です。

N8104-103 1000BASE-T接続ボード



重要

この製品に関しては、以下の点にご注意願います。

- 接続するLANケーブルのコネクタは、IEC-8877規格に準拠しているRJ-45コネクタを使用してください。標準品以外を使用すると、コネクタが抜けにくくなる場合があります。
- 各接続先の使用用途が異なり、同タイミングでのアクセスが発生しない環境下での増設をお願いします(システムライン用、保守用、監視用など)。
- アクセスが集中した場合、装置処理能力および伝送速度が若干劣化するおそれがあります。

● 取り付けスロット一覧

型 名	製品名	PCIモジュール PCIスロット						拡張PCIモジュール PCIスロット						備 考
		グループ1			グループ2			グループ1			グループ2			
		#1	#2	#3	#1	#2	#3	#1	#2	#3	#1	#2	#3	
N8104-103	1000BASE-T接続ボード*	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	各PCIモジュールに1枚だけ実装可能 各拡張PCIモジュールに2枚搭載可能

○ 搭載可能 — 搭載不可



重要

N8804-001P1、N8104-84、N8104-103と本装置内蔵のLANコントローラ(100BASE-TX、1000BASE-SX)を合わせて、装置全体で搭載可能な組数は最大6組までです。

● ドライバインストール手順

Express5800/ftサーバでは、N8104-103を2枚1組で二重化構成にして使用します。

以下の手順でドライバをインストールしてから二重化構成のセットアップをしてください。



重要

ドライバのインストールを行う場合、ボード添付のフロッピーディスクを使用しないでください。正しく動作しなくなります(PROSet II が起動しなくなります)。



ヒント

この手順を実行するには、管理者またはAdministratorsグループのメンバとしてログインしなければなりません。

OSのインストール終了後、次の手順に従ってドライバをインストールし、二重化の設定をします。

1. PCIモジュールまたは拡張PCIモジュールそれぞれの同ースロットにN8104-103を取り付けて、Windows Server 2003を起動する。

起動後、[新しいハードウェアが見つかりました]ウィンドウが表示され、ドライバは、自動的にインストールされます。

重要

[デジタル署名が見つかりませんでした]ダイアログボックスが表示された場合は、[はい]をクリックしてください。

2. LANの二重化を構築する。

別冊のユーザズガイド(セットアップ編)の「LANの二重化を設定する」を参照してください。

重要

「LANの二重化設定」の手順3において[Fault Tolerance]だけでなく[Load Balancing]の設定を行うこともできます。その場合は[Team #1:Adaptive Load Balancing Mode]が追加されます。

また、「LANの二重化設定」の手順4、手順5において NetWork Component Treeの表示は[Stratus emb-82559 10/100 Enet Adapter]を[NEC 8490XT Copper Gigabit Adapter]に読み替えて選択してください。

以上で完了です。

補足事項

バックアップ装置のご使用について

本装置に内蔵のSCSIコネクタに以下のバックアップ装置を接続して利用する際は、バックアップ装置用ファームウェアのアップデートが必要になる場合があります。

接続するバックアップ装置が下表に記載した機種に該当する場合は、「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内の“TapeFWUp” – “Sony”ディレクトリの中の「manual_J.pdf」を参照し、ファームウェアのアップデートを行ってください。

Nコード	名称	適用FWバージョン
N8151-29	内蔵AIT集合型	L1nb
N8151-39	内蔵DAT集合型	L2n4
N8151-45	内蔵DAT	02n9
N8151-46A	内蔵AIT	01nm
N8151-41A	内蔵AIT	01nm

* FWアップデートが必要なバックアップ装置は、上記適用FWバージョンよりも低いFWバージョンの装置です(アルファベットより数字の方が小さくなります。 例：L1nb>L1n8)。



重要

- バックアップ装置の取り付け/取り外し、ファームウェアのアップデートは専門的な知識を持った保守サービス会社の保守員が行ってください。
- バックアップ装置が内蔵型の場合、別売のSCSIケーブルとデバイス増設ユニットが必要です。外付け型の場合は別売りのSCSIケーブルのみ必要です(デバイス増設ユニットは必要ではありません)。詳しくはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。